認定様式第5号

訓練カリキュラム

訓練実施機関名：

訓練の種別		基礎コース				就職を想定する職業・職種 （※基礎コースの場合は記載不要）	
	✔	実践コース（　　06農業分野　　）					
訓練科名	稲作作業者養成科 ※40文字以内で記入してください。					稲作作業者	
募集期間（予定）	平成　年　月　日　～　平成　年　月　日						
選考日（予定）	平成　年　月　日						
選考方法	✔	面接	✔	筆記試験		その他（　　）	
選考結果通知日	平成　年　月　日						
訓練期間	平成　年　月　日　～　平成　年　月　日　（　5 か月）　（訓練日数　日）						
訓練時間	時　分　～　時　分				訓練定員	名	
訓練対象者の条件	特になし						
訓練推奨者 （特定の者を想定する場合のみ）		新規学校卒業者		ニート等の若者		障害者	母子家庭の母等
		被災者		外国人	その他（　　）		
訓練目標 （仕上がり像）	水稲作農業事業所において米作りの基本作業ができる。						
訓練修了後に取得できる資格	名称（　　）認定機関（　　）						任意受験
	名称（　　）認定機関（　　）						任意受験
	名称（　　）認定機関（　　）						任意受験
	名称（　　）認定機関（　　）						任意受験
	名称（　　）認定機関（　　）						任意受験

訓練内容

訓練概要	職業能力の基礎となるコミュニケーション力やビジネスマナー、水稲作農業における土作り、栽培、収穫・調製、保管・出荷、機械・器具管理に関する知識及び技術・技能を習得する。		
科目		科目の内容	訓練時間
学科	開講式等	開講式・オリエンテーション・修了式（3H）、就職支援（＊H）	
	職業能力基礎講習	自己理解、仕事理解、職業意識、職場内のコミュニケーション、聴き方・話し方、ビジネスマナー	30時間
	安全衛生	安全点検、作業着の準備・確認	6時間
	圃場整備の知識	深耕、土壌診断、土壌改良、畦塗り、施肥、生育調査、トラクターの操作方法	42時間
	水稲栽培の基礎知識	稲の生育段階、水管理、育苗管理（種籾の選別、播種）、植え付け（密度等）、農機の利用	39時間
	畦畔管理概論	雑草防除（薬剤と散布）、畦畔管理	18時間
	病虫害対策	病虫害の種類、薬剤の効能と使用方法、薬剤の散布時期と病虫害への対応、農薬取締法	18時間
	収穫から出荷の知識	機械乾燥、籾すり、選別	12時間
	施設・設備管理の基礎	施設・設備の構造、劣化と事故、農機具等の種類と構造	12時間
実技	土作り演習	農機具等の操作及び保守点検、トラクターによる深耕、畦塗り、均平作業、施肥、生育調査	84時間
	栽培実習	水管理作業、作溝作業、しろかき、植え付け、除草作業、除草剤散布、病虫害防除、作業着の準備・確認、作業場の安全管理	96時間
	収穫・調製演習	刈り取り・脱穀、機械乾燥、水分測定、籾すり、選別、計量袋詰め作業及び機器の使用方法	60時間
	保管・出荷演習	品種別管理、温度管理、湿度管理、出荷作業	18時間
	機械・器具管理実習	安全点検、故障時の対応・修理、農機具等管理実務、施設・設備管理実務	72時間
✔ 職場体験　✔ 職場見学　□ 職業人講話　□ その他		職場体験　「植え付け作業補助」㈱〇〇6H 職場見学　①「畦畔管理現場」㈱〇〇6H、②「収穫・出荷現場」㈱〇〇6H	6時間 12時間
企業実習		✔ 実施しない　□ 実施する　※実施する場合、カリキュラムは別途作成し、総時間のみ記入してください。	
訓練時間総合計　525時間		学科　177時間	実技　330時間　職場体験等　18時間
受講者の負担する費用		教科書代　〇，〇〇〇円 その他（　作業服　）　〇，〇〇〇円 備考（　職場見学・体験先への交通費は実費　）	合計　〇，〇〇〇円

指導方法

訓練形態（個別指導・補講を除く）	✔ 全ての受講者を一堂に集め、講師が直接指導する
施設設備や教材等を有効に活用した効果的な指導のための工夫	
受講者ごとの特質及び習得状況に応じた指導のための工夫	

・このカリキュラム等は一例ですので、実際には地域の求人ニーズ等を踏まえて作成してください。
・平成27年3月現在の認定基準に基づき、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が作成したものです。

認定様式第13号

ジョブ・カード様式４－２〔評価シート〕

訓練番号

訓練科名　　稲作作業者養成科

訓練受講者氏名

上記の者の訓練期間における当社としての職業能力についての評価は、以下のとおりですので、今後のキャリア形成の参考にしてください。

平成　　年　　月　　日

教育訓練実施機関

（就職支援責任者氏名・印）

（訓練実施施設の責任者氏名・印）

Ⅰ　訓練期間・訓練目標

訓　練　期　間	訓練時間	訓　練　目　標　（仕上がり像）
平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日	525時間	水稲作農業事業所において米作りの基本作業ができる。

Ⅱ　知識、技能・技術に関する能力　（「知識、技能・技術に関する評価項目」ごとに、該当する欄に〇を記載）

（1）科目評価

A：到達水準を十分に上回った　B：到達水準に達した　C：到達水準に達しなかった　（評価は、試験結果等に基づき記載されたものです）

科目名		評価 A	評価 B	評価 C		知識、技能・技術に関する評価項目	コード
学科	安全衛生				(1)	機械装置の点検時の注意事項を知っている	A011011062
					(2)	首手ぬぐい、腰タオル等の巻き込み事故の原因となる服装を知っている	A011011062
					(3)	作業衣の袖口のボタンをはずしたままの作業や、袖口のほつれ等による危険性を知っている	A011011062
					(4)	手袋の巻き込みの危険がある作業を知っている	A011011062
	圃場整備の知識				(1)	トラクターの使い方を知っている	A011010422
					(2)	土壌診断の方法を知っている	A011010422
					(3)	土壌改良剤の種類を知っている	A011010422
					(4)	畦塗りに適した水分状態を知っている	A011010432
					(5)	稲の育成段階による適切な施肥時期を知っている	A011010462
					(6)	生育調査の調査項目を知っている	A011010462
	水稲栽培の基礎知識				(1)	稲の生育段階による適切な水管理の方法を知っている	A011010442
					(2)	生育状況や天候に応じた適切な水分量を知っている	A011010442
					(3)	適切な植え付け密度を知っている	A011010391
					(4)	適切な植え付け深さを知っている	A011010391
					(5)	田植機の使い方を知っている	A011010391
	畦畔管理概論				(1)	薬剤の効能と使用方法を知っている	A011010401
					(2)	除草剤散布時の留意点を知っている	A011010401
					(3)	畦畔の補修の仕方を知っている	A011010411
	病害虫対策				(1)	薬剤の効能と使用方法を知っている	A011010452
					(2)	病虫害の種類を知っている	A011010452
					(3)	病虫害が発生した際の適切な対応の仕方を知っている	A011010452
					(4)	農薬取締法の農薬飛散防止条項を知っている	A011010452
	収穫から出荷の知識				(1)	適切な水分量を知っている	A011010502
					(2)	籾すり機の使い方を知っている	A011010512
					(3)	選別機の使い方を知っている	A011010512
	施設・設備管理の基礎				(1)	施設・設備の構造や劣化のタイプを知っている	A011011112
					(2)	設備にどのような取扱いをすると事故につながるかを知っている	A011011112
					(3)	保守点検する機械・器具の特徴を知っており、特徴に応じた点検方法を知っている	A011011122

実	土作り演習				(1)	深耕ができる	A011010422
					(2)	トラクターを運転できる	A011010422
					(3)	畦塗り機の点検ができる	A011010432
					(4)	圃場の傾斜に気を付けて作業ができる	A011010432
					(5)	施肥名と量を記録できる	A011010462
					(6)	生育調査ができる	A011010462
	栽培実習				(1)	稲の生育段階による適切な水管理ができる	A011010442
					(2)	作溝機による稲の列の間に溝を掘ることができる	A011010442
					(3)	手植えができる	A011010391
					(4)	田植機の安全運転できる	A011010391
					(5)	除草剤名及び量の記録ができる	A011010401
					(6)	他の耕作地を考慮した除草剤の散布ができる	A011010411
					(7)	病虫害が発生した際の適切な対応ができる	A011010452
					(8)	農薬の使用状況の記録ができる	A011010452
					(9)	作業に合わせた手袋の準備・確認ができる	A011011062
					(10)	作業に合わせためがねの準備・確認ができる	A011011062
					(11)	作業に合わせたマスクの準備・確認ができる	A011011062
					(12)	作業場の採光、照明、温熱、騒音の確認ができる	A011011062
					(13)	機械の回転部分の安全カバー等の確認ができる	A011011062
技	収穫・調製演習				(1)	コンバインの運転ができる	A011010492
					(2)	乾燥機の安全運転ができる	A011010502
					(3)	水分計による測定ができる	A011010502
					(4)	籾すり機の安全運転ができる	A011010512
					(5)	選別機の能力、選別する粒の品質等にあわせて処理スピードやベルトの傾斜角を調整できる	A011010512
					(6)	計量袋詰め作業ができる	A011010512
	保管・出荷演習				(1)	出荷記録を付けることができる	A011010521
					(2)	品種別管理ができる	A011010532
	機械・器具管理実習				(1)	取扱説明書から故障時の対応の確認ができる	A011011052
					(2)	定期的な自主点検ができる	A011011062
					(3)	施設・設備の老朽化の状況が把握できる	A011011112
					(4)	設備予備品の管理ができる	A011011112
	職場体験				(1)	体験先の職場に適応することができる	KM301001
					(2)	体験先の職場において仕事に興味・意欲を示すことができる	KM301001
					(3)	管理者・指導担当者等からの業務指示・命令の内容を理解し行動することができる	KM301001
					(4)	基本的なビジネスマナーやビジネスコミュニケーションを体験先の職場で実践できる	KM301001
					(5)	体験先の職場の安全規程を正確に把握し安全に行動することができる	KM301001

評価項目の引用元（企業横断的な評価基準を活用した場合のみ）：

（特記事項）

カリキュラム等作成の主なポイント【稲作作業者養成科】

Ⅰ　稲作作業者の主な職務・仕事

（１）圃場整備

深耕、土壌診断、土壌改良、畦塗り、施肥、育成調査

（２）水稲栽培

稲の生育段階、水管理、作溝、植え付け、農機の利用

（３）畦畔管理

雑草防除、畦畔管理

（４）病害虫対策

病害虫の種類、薬剤の効能と使用方法、適切な対応、農薬取締法

（５）収穫から出荷の知識

刈り取り・脱穀、機械乾燥、水分測定、籾すり、選別、計量袋詰め、出荷、保管管理

（６）安全衛生

安全点検、作業着の準備・確認

（７）施設・設備管理

機械・器具管理（農機具等の種類と構造)、施設設備の構造、劣化と事故

※引用元；独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構「職業能力開発体系（米作・米作以外の穀作農業)」

Ⅱ　カリキュラム・評価シート作成の流れ

（１）カリキュラム

①就職を想定する職業・職種

□独立行政法人労働政策研修・研究機構「職業名索引」から「稲作作業者」を引用する。

②訓練科名

□就職を想定する職業・職種を容易に類推できるよう「稲作作業者」を科名に盛り込む。

③訓練目標

□稲作作業者の主な職務･仕事である米作りの基本作業ができるようになることを目標とする。

④訓練内容

□学科には、仕事単位に科目を設定し、作業全般についての知識を習得できるようにする。

□実技では、仕事のなかで習得しておくべき技能・技術を「栽培」「収穫・出荷」「機械・器具管理」の科目の中で習得するよう設定する。

※１　カリキュラム中での割合は専門的な実技が訓練時間総合計の 30%以上、同学科・実技の合計が 50%以上（算定に当たっては、訓練時間総合計等から企業実習の時間数を除いて算定する）

※２　労働安全衛生法等の関係法令において安全衛生教育が必須とされている作業を実技に設定する場合には、該当する安全衛生教育を科目として設定。また、その場合、その定めに従い１時限を６０分間として設定。

（２）評価シート

□科目ごとの目標を適正に評価できるよう、カリキュラム「科目の内容」の区分毎に該当する評価項目を「日本版デュアルシステム訓練修了後の評価項目作成支援ツール」から引用し設定する。